椿貞雄と西洋

Tsubaki Sadao and the West

令和8年度船橋市所蔵作品展

入場無料



椿貞雄《大浦天主堂》1957(昭和32)年 米沢市上杉博物館蔵

主催：船橋市教育委員会／（公財）船橋市公園協会

船橋市民ギャラリー

〒273-0005 船橋市本町2-1-1 船橋スクエア21ビル3階

令和8年

12.3 THU → 21 MON

10:00～17:00（金曜日は19:00まで）

同時開催 現代美術作家による作品展

原太一

会場：船橋市民ギャラリー（第4展示室）

ギアス氏と相棒の旅

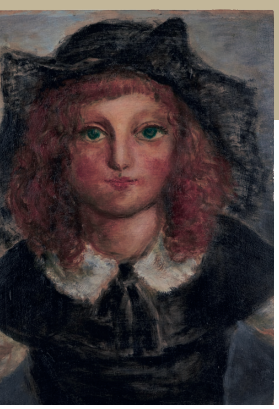
-After the Rain-

椿貞雄と西洋

船橋ゆかりの洋画家・椿貞雄（1896-1957）の画業は岸田劉生（1891-1929）との運命的な出会いから始まりました。西洋美術を日本に紹介していた文芸雑誌『白樺』の同人たちと交流する中で、若き日の椿は西洋への憧れとともに自らの表現を探し、生み出そうと研鑽を重ねました。

1926（大正15）年、船橋尋常高等小学校（現・市立船橋小学校）の図画教員となったことをきっかけに船橋に移り住んだ椿は、岸田劉生の没後、周囲の勧めにより半年間ヨーロッパへ遊学します。そこで彼は、画家として進むべき道を見つけ、歩み始めました。また戦後、異国情緒あふれる長崎に幾度となく通い、自ら「長崎に憑かれた男」と称して、港や町の風景、被爆した浦上天主堂の姿などを描き留めました。

油彩画を示す「洋画」とは、「日本画」に対するものとして、ナショナリズムが台頭した時代の中で生まれた言葉です。洋画家・椿貞雄は、生涯の中で、どのように「西洋美術」、「西洋」と向き合ったのでしょうか。本展では、椿の生誕130年を記念し、市所蔵作品に加え、生誕の地である米沢市上杉博物館等から作品を借用し、100点以上の作品・資料を紹介します。椿貞雄が追求した「写実」を通して、彼が生きた時代を考える機会となれば幸いです。



椿貞雄《アンドレ像》
1932（昭和7）年 船橋市蔵

令和８年度船橋市所蔵作品展

12.3 THU → 21 MON　入場無料

10:00～17:00（金曜日は19:00まで）｜ 主催：船橋市教育委員会／（公財）船橋市公園協会

イベント

講演会「椿貞雄と西洋美術」　EVENT 1

椿貞雄が見て、憧れた西洋美術について美術史家にご講演いただきます。

定員：各回40名（要事前申し込み・先着順）
①椿貞雄はどのようにして西洋美術に出会ったか
日時：12月6日（日）14:00~15:30／講師：高橋裕子（学習院大学名誉教授）
②椿貞雄の「日本」と「西洋」
日時：12月13日（日）14:00~15:30／講師：有川治男（学習院大学名誉教授）

学芸員によるギャラリートーク　EVENT 2

展示室にて展覧会の見どころを学芸員が紹介します。

日時：12月4日（金）／11日（金）14:00~14:30＊各回同じ内容です
講師：益子実華（船橋市教育委員会　文化課学芸員）
定員：各回20名（申し込み不要・先着順）

学芸員によるスライドトーク　EVENT 3

展覧会の見どころを座学形式で紹介します。

日時：12月18日（金）14:00~15:30
講師：益子実華（船橋市教育委員会　文化課学芸員）
定員：40名（要事前申込・先着順）

全てのイベントは参加費無料。11月15日（日）から船橋市民ギャラリーの窓口もしくはお電話（047-420-2111）でお申し込みください。



椿貞雄《洋ナシ》1952（昭和27）年 個人蔵



椿貞雄《トレド風景》1932（昭和7）年 山形美術館蔵



椿貞雄《八重子》1918（大正7）年12月8日 船橋市蔵

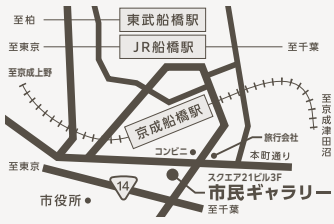
Taubaki Sadao and the West



船橋市民ギャラリー

〒273-0005 千葉県船橋市本町2-1-1
船橋スクエア21ビル3階 Tel:047-420-2111

船橋市バーチャル美術館
船橋市バーチャル美術館にて
展覧会・イベント情報を掲載中!



JR・東武アーバンパークライン船橋駅から徒歩7分
京成船橋駅から徒歩5分

同時開催

現代美術作家による作品展 ｜ 原太一

ギアス氏と相棒の旅 -After the Rain-

会場：船橋市民ギャラリー（第４展示室）

千葉県出身の洋画家・原太一（1982～）は、擬人化されたウサギのギアス氏と相棒の犬ジョンが一緒に旅をするシリーズを制作。海外旅行が難しくなったコロナ禍以降は、名画をモチーフに作家へのオマージュや社会への問いを表現しています。本展では、その中から約30点の作品を展示します。

